

第1章 はじめに

●計画の前提

県では、地元の要望を踏まえ、新川文化ホール敷地内に、遊びを通じたこどもの非認知能力の形成や基礎的な運動能力等の開発・向上につながる「屋内レクリエーション施設」の整備を検討（R2年度～）

●現状を取り巻く課題

- ①子どもの**非認知能力向上**の必要性
- ②子どもの**運動能力の低下**
- ③新川地域の**人口減少**
- ④新川地域の**屋内子ども施設の少なさ**
- ⑤新川文化ホールの**稼働率低下**

●類似施設の動向 **STEAM教育**の推進／**社会包摂思想**の普及

●県の上位計画の基本方針など
 ・富山県総合計画、富山県教育大綱 など
 ・富山県成長戦略（中間取りまとめ）
 （STEAM教育の強化、「生きる力」や非認知能力を養う）

第2章 基本的な整備方針

●コンセプト

変化に向きあい、未来を創る力の育成

・私たちは、子どもたちが、これからの不確実な時代を生きていくうえで、**こどもたちの将来を見据えた人間形成**に役立つ、潜在的な生き抜く術を教えることが責務だと思っています。
 ・そのため、**地域に住む人々や企業も運営に参加**していただき、こどもたちが**郷土の素晴らしさを理解**するとともに、遊びを通して生きる力を養っていきべきだと考えています。
 ・本施設は、その「思い」を「カタチ」にするものです。

●メインターゲット

幼児～小学生（低学年）

●整備方針

- 1 雨天や降雪時、酷暑でも利用できる**屋内型の施設**
- 2 遊びを通して、**非認知能力・運動能力・創造性を育む施設**
- 3 **新川文化ホールの特性（音楽、芸術）と連携した施設**
- 4 **同伴者（父母、祖父母）も満足できる施設**
- 5 独自性や先進性に優れた**インクルーシブな施設**

★3つの特徴

- ①**魅力的なスタッフ**
スタッフによる“感動”の提供により「あのスタッフに、また会いたい」と思ってもらえる施設
- ②**多様な方の関わり**
地域住民・企業、学生など、多様なバックグラウンドを持った方に関わっていただき、将来を担う子どもを育成する施設
- ③**シームレスな空間**
屋内だけでなく自然も感じることが出来る空間の創出により、屋内施設でありながら外に開かれたオリジナリティのある施設

●基本機能

- ①**子どもたちの遊び促進**
・身体を動かして遊ぶ
・創作・芸術に触れる
- ②**子育て支援**
・乳幼児・保護者の交流
・育児情報の発信

第3章 展示計画

●展示コンセプト **にいかわ あそびの大地**

子どもたちの生きる力を育む「大地」となる施設。屋内施設でありながら、新川の自然を感じることができ、屋外空間と一体的に遊べる場をめざす。

●展示テーマ・構成

エリア	構成	コンセプト	イメージ
遊具スペース	新川のダイナミックな地形をイメージした、体を使って遊べる遊具があるスペース	展示コンセプトを体現し、自由な発想で遊ぶ（非認知能力）	<ul style="list-style-type: none"> ・家ではできない遊びができる遊具の設置 ・楽しみながら社会のしくみを学べる仕掛け（例：トイレ清掃トレイン等） ・自然と触れ合うベースキャンプ的な役割（アウトドアツアーの出発地等）
ワークショップスペース	創像力向上に寄与する様々なワークショップに挑戦できるスペース	子どもが個性を発揮して自由に創造したり、友達と一緒に試行錯誤する（創造性、想像力）	<ul style="list-style-type: none"> ・新川文化ホールとの連携によるイベント開催 ・生きる力を身につけるプログラミング体験 ・学生のインターンシップの場
乳幼児スペース	木のおもちゃを主体とした、低年齢の乳幼児専用のスペース	他のエリアと境界を分け、乳幼児と親が安心してくつろぐ（親子の絆）	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談窓口の運営 ・親子で参加できるイベントの開催 ・子育てに役立つ情報の発信



●ゾーニング・デザインにおける留意点

- ・1階～2階までつながる大型遊具で、建物自体を「あそび場」に
- ・1階の縁側ピロティ、2階の屋上広場で、富山の自然を背景に遊ぶ
- ・雨天時でも新川文化ホールや駐車場まで濡れずに移動できるよう配慮

第4章 施設計画

- 建設予定地 **新川文化ホール敷地内**
※建築場所は、②を前提に新川文化ホールからの景観等に配慮のうえ今後検討。なお、具体的な建築場所については地盤の状況等を踏まえ決定
- 施設規模 **延床面積2,000～2,500㎡程度**
※必要な機能を十分に確保できる面積
- 概算事業費 初期整備費：約24～28億円程度
※富山県子どもみらい館の事例をもとに試算
- 施設運営費 初年度：約1億円程度
※類似施設の例や、想定される事業内容から試算



●諸室の面積試算・構成（延床面積2,300㎡の場合）

室名	面積
遊具スペース（身体を使って遊ぶ）	1,000
乳幼児スペース（乳幼児専用）	200
ワークショップスペース（家ではできない本格的な創作等）	300
休憩・食事スペース（親同士、地域との交流）	200
共用部、事務所等（授乳室、エントランス等）	600

第5章 管理運営計画

●想定来館者数の考え方 初年度の想定来館者数：約10万人程度
 ※富山県子どもみらい館の年間来館者数等を基に、半径30km。圏内の人口を比較し試算

●開館日・開館時間・料金のイメージ

開館日	土日祝日は開館／平日に1日休館 春休み・夏休み期間は休まず開館、年末年始は休館
開館時間	9:00～17:00の開館が基本
料金	有料、無料は今後検討 ※課題（無料の場合）誰もが自由に入出りできるため、セキュリティ面の対策が別途必要となる（有料の場合）受付や入場ゲート等を通して屋内外を行き来する必要があるほか、利用に対するハードルが上がってしまう可能性がある

第6章 運営手法の検討

隣接する新川文化ホールとの連携を図りながら、より効果的・効率的な施設運営を行うため、**今後具体的な運営手法を決定**する。

- ※運営手法案
- ・PFI方式
 - ・指定管理者方式など